

[成果情報名]イチゴ品種「ゆめのか」のうどんこ病および萎黄病の発病特性

[要約] 「ゆめのか」は「さちのか」と比較し、うどんこ病に対する耐性はやや高く、萎黄病に対してはほぼ同等である。

[キーワード] イチゴ「ゆめのか」、うどんこ病、萎黄病

[担当] 長崎県農林技術開発センター・環境研究部門・病害虫研究室

[連絡先] (代表) 0957-26-3330

[区分] 野菜

[分類] 指導

[作成年度] 2014 年度

[背景・ねらい]

本県におけるイチゴの主要品種は「さちのか」であるが、収量性に優れる「ゆめのか」への切り替えが進められている。安定生産技術確立に向けた栽培試験に取り組んでいるが、病害虫の発生特性については不明である。これまで、「ゆめのか」は「さちのか」と比較して育苗期におけるうどんこ病に対してはやや強く、炭疽病および輪斑病に対してはほぼ同等であることが明らかになっている（2013 年成果情報）。そこで、重要病害であるうどんこ病（本圃期）および萎黄病の「ゆめのか」における発病特性を明らかにし、防除対策に資する。

[成果の内容・特徴]

1. 「ゆめのか」は「さちのか」と比較し、葉および果実におけるうどんこ病に対する耐性はやや高い（図 1）。
2. 「ゆめのか」は「さちのか」と比較し、萎黄病に対する耐性はほぼ同等である（図 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「ゆめのか」は、炭疽病・輪斑病・うどんこ病および萎黄病に対し、「さちのか」と同様の防除対策が必要である。
2. 本試験は接種による試験であり、殺菌剤は使用していない。

[具体的データ]

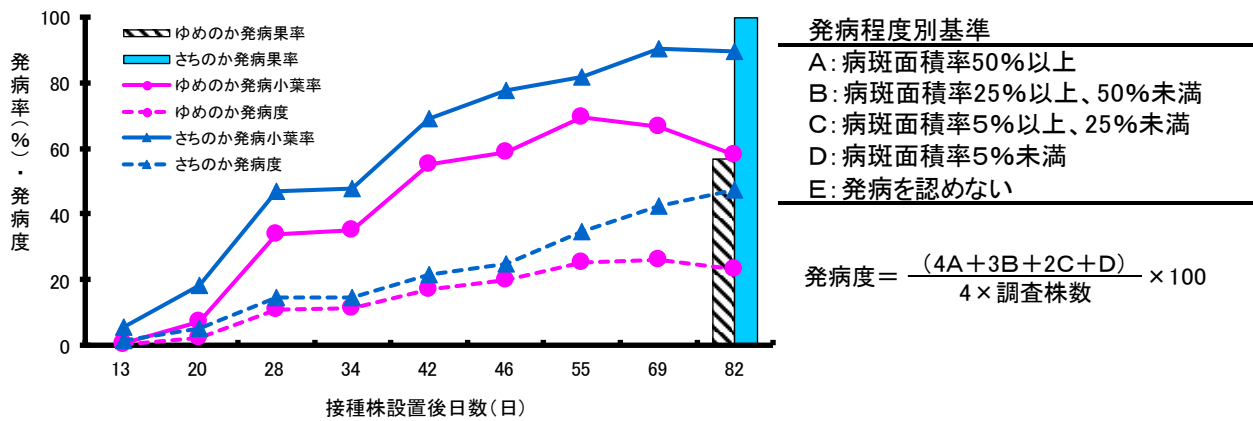


図1 うどんこ病の発生推移 (本圃)

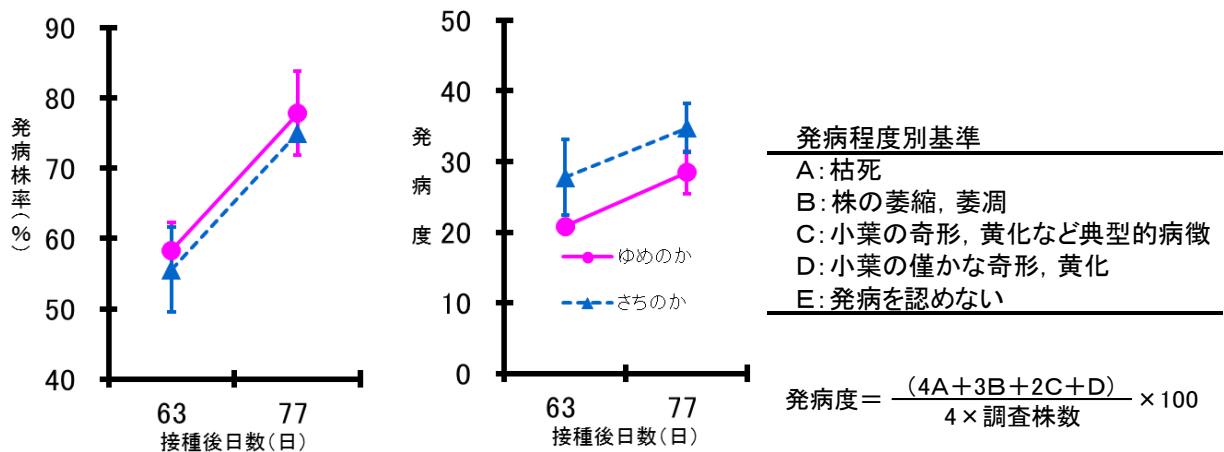


図2 萎黄病の発生推移

試験方法

	うどんこ病	萎黄病
場所	ビニルハウス	ガラス室
区制	1区10株×2反復	1区12株(9cmポット苗)×3反復
病原菌接種	発病株設置による間接接種 (10株ごとに発病株1株設置)	分生子懸濁液灌注による直接接種
調査部位	上位3複葉および第1果房	株全体

【接種日】 うどんこ病：2014年10月4日 萎黄病：2014年8月22日
 【定植日】 うどんこ病：2014年9月26日

[その他]

研究課題名：農林業生産現場への緊急技術支援プロジェクト研究
 予算区分：県単
 研究期間：2002年度～
 研究担当者：難波信行・森 三紗